

☺ 神の湯本館 釘隠しの作り方



①銅板を柔らかくします



②酸化した銅の酸化膜を除去します



③鏝を使用して金属を彫り込みます(①～③の工程を数回繰り返します)



④銅板同士を銀ろうを用いて繋げます



⑤銅板を硫黄の液に潜らせて着色します



☺ 神の湯本館 鬼瓦と拝巴瓦

修理前



修理後



「神泉」の文字は金泥が施されており、建設から約120年経過しても金が残っていたことは大変貴重です。



詳しい作業の様子は動画で公開しています



湯釜紹介

はじめは奈良時代から使用されていたと伝わる道後温泉の石製の湯釜は他の温泉地では見られない独特の趣があり、道後温泉の魅力の一つです。現存する13の湯釜について、歴史的価値などを紹介していきます。



第9回

榊の湯(女子浴室)湯釜

昭和59年(1984)に榊の湯は地元の公衆浴場として、昭和28年(1953)にあった建物を改築して建設されました。湯釜(直径120cm、高さ280cm)は上質の大島石(花崗岩)、女子浴室には「巡礼の杓に汲みたる榊かな」と正岡子規の俳句が刻まれ、子規記念博物館の初代館長、和田茂樹によって揮毫されました。



- 補助事業名 / (重文)道後温泉本館神の湯本館ほか7棟建造物保存修理事業
- 補助事業費 / 国宝重要文化財等保存・活用事業費補助金
- 施工者 / 門屋組・成武建設・富士造型特定建設工事共同企業体
- 監理者 / 文化財建造物保存技術協会

道後温泉本館は、霊の湯で入浴できます。

※神の湯(男・女)、2階・3階休憩室は休止しています。
※営業時間や入浴料など、詳しくは「道後温泉公式サイト」をご覧ください。

■お問い合わせ先
〒790-0842 松山市道後湯之町4番30号 道後温泉事務所 TEL.089-921-5141



[道後温泉公式サイト]
<https://dogo.jp>



愛媛 松山 道後温泉

歴史をつなぐ
未来へのこす

重要文化財
道後温泉本館 保存修理工事



第9号 令和5年(2023年)7月

道後温泉本館の紹介



修理中
又新殿・霊の湯棟

明治32年(1899)竣工。日本唯一の皇室専用浴室のある又新殿・霊の湯棟は、銅板葺及び檜皮葺の木造3階建て、正面(東面)に御成門があります。(※1階で入浴できます)



又新殿の観覧・浴室営業中



浴室のみ営業中

修理中

玄関棟

修理中

大正13年(1924)竣工。神の湯、霊の湯、養生湯の各浴室に入浴できるようにするため出札口として建設されました。昭和10年(1935)の神の湯を曳家した時に現在の玄関棟としての役割に変わりました。



明治27年(1894)の改築以降、大正、昭和、平成、そして令和、時代とともに輝き続ける道後温泉本館。営業しながらの重要文化財の公衆浴場の保存修理工事は、日本初の取組です。

神の湯本館

明治27年(1894)竣工。棧瓦及び銅板葺の木造3階建て、1階に浴場、2階・3階を休憩室とし、入母屋造の大屋根の上に塔屋を設けています。

道後温泉本館の土居葺き

道後温泉本館の屋根の下地には防水の役割として木の板が敷き詰められていました。神の湯本館では木材に手割の杉板が使用され、止め釘には竹釘が使用されていました。

また、玄関棟(南側)では昭和に建設されたため、工業化が進んだ影響で手割から機械挽き、止め釘には鉄釘が使用されていました。

保存修理工事では修理前の状況を再現するため、神の湯本館は手割の杉板、玄関棟(南側)は機械挽きの杉板を用いるなど修理前と同じ材料を使用し、後世へ引き継ぐため再現に努めています。



土居葺き(施工中)



神の湯本館



玄関棟(南側)



杉板(手割)【神の湯本館】



杉板(機械挽き)【玄関棟】

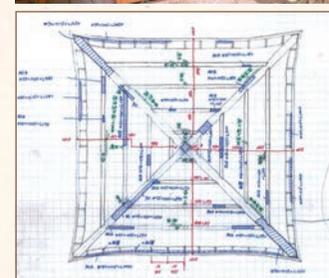
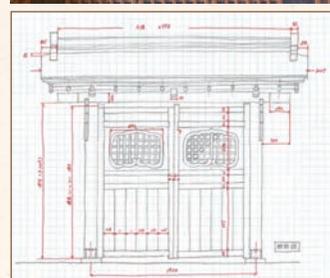
道後温泉本館の実測調査図



又新殿 御成門



振鷲閣



人がつなぐ 担当者の声【実測調査図等作成】

Q. 道後温泉本館の実測調査で見えてきたことは?

文化財建造物の修理は、建物の貴重な情報を記録として残していくために工事と並行して様々な調査が行われます。道後温泉本館は増築や改造を繰り返した複雑な建物ですので、調査には根気が必要でしたが、部材をひとつひとつ解体し、調査を進める中で先人がどのような考えで作ったかを紐解いてゆき事ができ、貴重な経験になりました。道後温泉本館はそれぞれの棟で時代毎の特徴があり、今日では使用される事の少ない技術や良質な材料が用いられています。伊佐庭如矢町長や棟梁・坂本又八郎さんをはじめとする先人の想いを汲む事ができるように、傷んだ部材の補修や取替は行いつつも、なるべく手を加えずに修理する事を心掛けました。



詳しい作業の様子は動画で公開しています

公益財団法人文化財建造物保存技術協会

廣見 秀行さん



道後温泉本館保存修理工事の進捗状況(令和5年7月時点)

◆ 神の湯本館

浴室の壁には補強としてコンクリートの壁を設置し、天井の吹付工事、壁や床の石の復旧工事をおこないます。3階の個室では丸窓の漆塗りの作業をおこなう予定です。

◆ 中央廊下

中央廊下の壁の下地は浴室のコンクリート躯体の外側部分であり、コンクリートの補修と共に床、壁、天井の木部の復旧作業をおこないます。床下には新たにピットの空間を設けたことで今後のメンテナンスの利便性の向上を図りました。

◆ 玄関棟

瓦を設置するなどの屋根工事が完了しました。引き続き構造補強の工事をおこないます。

